

お墓のイエス様（マタイ 27:62-66）

苦難や試練、死や危機にあうと、ほとんど人は、落胆したり、あきらめたりします。中には戦って克服する人もいます。信者の私たちは、そのようなとき、どうすれば良いのでしょうか。人からではなく、聖書のみことば、十字架と復活を通して教えられましょう。今日の聖書では、イエス様が葬られるようになりました。墓は封印されて、番兵が見張りをしています。ここからなにを教えられるのでしょうか。

サタンは、イエスが死んだので、なにもかもおしまいだとだまします。死んで墓の中ですから、三日目の復活などありえないと思っていたパリサイ人たちは、弟子たちが死体を盗み出すと思い、墓を見張らせました。サタンは人の心を惑わしてだまします。それは、人類のはじめから、今に至るまで同じパターンです。死んだらおしまいという前提です。福音のないカインはアベルを殺したらおしまいだと思いました。ヨブの財産を奪い子どもたちを殺し、皮膚がんのような病気になったら、ヨブの信仰はおしまいだと思いました。ダビデは死の陰の谷を歩いたらおしまいだと思いました。エリヤは、指名手配され、サタンにだまされて、もう終わりだと思いました。ダニエルを獅子の穴の中に入れたら、三人の青年を炎の中に入れたら、もう終わりだと思わせました。初代教会ではステパノが石で打たれて死んだら、また、信徒たちは、迫害によってすべてを奪われたらおしまいだと思わせました。再臨まで、このパターンは続きます。サタンは偽りの父で、はじめから

人殺しだと言われてるように、殺せば終わるといふいつわりを人々が信じるようにさせるのです。ですから、私たちは、それは偽りであると、十字架と復活、また、歴史の証拠から見て、死の危機や試練は終わりではないと、いつわりを退けましょう。

そして、**イエス様の死とお墓は、復活のためのいのちの種を蒔いたこと**だと、契約として握りましょう。お墓に入った三日間は、復活の花を咲かせるためのいのちを育む場でした。これが天の御国の奥義です。私たち信者の苦難、死の危機、捨てられたような、滅びたような希望のない所は、御座の力、復活のいのちが現れるためのプロセスなのです。イエス様も、「一粒の麦が死ねば、豊かな実を結びます」（ヨハネ 12:24）と言われました。そして、イエス様は復活の初穂として死者の中からよみがえられました（1コリント 15:20）と書いてあるように復活するために墓に入られたのです。アベルは、死んで終わったではありません。イエスのいのちがある義人として証明されて、その信仰によって、今もなお話しています（ヘブル 11:4）。ヨブは終わったのではなく、信仰によって、地上で御座を見て、復活のみわざが現れるようになりました（ヨブ 42:5）。ヨセフの奴隷や刑務所は、終わりだと思える試練、死の危機でしたが、神様がともにおられたので、その中で御座の祝福の中に入っていたのです（創世記 39:2）。ダビデも死の陰の谷で御座の祝福を味わっていました（詩篇 23:1-3）。試練は、おしまいだとサタンはうそをつきますが、そのときは御座の祝

福が開かれ、天と地がひとつになるきっかけになるチャンスです。三人の青年は、炎の中で御座の祝福を現すことになりました（ダニエル 3:25）。自分が思っていることがすべてではないと分かり、天の御座の世界を見るのです。イエスはキリストであり、御国の祝福があり、神様が御座におられること、いのちがある神のかたちであることが、試練や危機の中で確実に知るようになります。悪魔は、それでおしまいにしようとして攻撃しますが、人間のレベルを超え、御使いが遣わされる御座の祝福を確実にするプロセスになります（ダニエル 6:22）。そして、証人として次のステップに進むことができます。そうでないと、衣食住に捕らわれる人生から抜け出せません。エリヤには、神様が隠しておかれた秘密が明らかにされる時となりました（1列王 19:15-18）。初代教会は激しい迫害の中でも御座におられる主イエスがさらにあきらかにされるようになりました（マルコ 16:20）。試練がどうであっても、証人となると言われたのは、住む世界が違うということです（使徒 1:8）。黙示録を見ると、恐ろしい悪魔が教会をつぶそうと攻撃しますが、教会、信者は勝利します。試練と攻撃の中を歩むのが信者です。巡

礼者として歩むのです。契約のために歩んでいます。御使いが神様の使いとして手伝っている中を歩むのです。この答えを十字架と復活を通して見ましょう。

試練や苦難はおしまいだというサタンのささやきにだまされないようにしましょう。心の中で明確に握りましょう。**試練、苦難は、復活のいのちを育む時間であり、後に復活のいのちの働きがあることを見上げ、自分と御座をつなぐ時間です。**いのちの契約に立ち、キリストだけが人生の答え（only キリスト）となり、やみの世界が必要だと教える道徳や思いやり、福祉ではなく、ただ神の国がほんとうに必要であり（only 神の国）、生きるのに本当に必要な力は聖霊の力（only 聖霊）だと握りましょう。この契約を握り、御座の祝福を握って、神の国が臨む、神様の答えのみを待ち望みましょう。心配や悩みは捨て、御座を見上げる時間にしましょう。大変なときは、復活のいのちが育まれる時間だと感謝して、いのち、復活の力、神の国が現れるために、味わいつつ祈りましょう。そうすれば、自分の内に、現場に、世界に復活の力が現れるようになるでしょう。

1部-マタイ 27:62-66 お墓のイエス様

なるほど/サタンはイエス様を殺してすべてを終わらせることができると人々を煽るが、イエス様の死は復活のいのちの種を蒔くことだった。ならば/信者にあるどんな試練も、死の危機でさえも、いのちの契約を固く握り、御座の働きを望む時間にしよう。

2部-ヨハネ 3:8 失敗の理由と解決策

なるほど/人間の失敗の根本理由は霊的傷であり、従って唯一の解決策はキリストであり、その中にある御座の祝福である。

ならば/キリストにあつて傷を土台にして、真の癒しを通して御座の祝福を大胆に祈ろう。